F2-36

近代横浜における競馬場建設が地域に及ぼした影響に関する基礎的研究

A Besic Study on the Impact of the Horse Racetracks Construction to the Region in Modern Yokohama

○有井菜々美[1]，押田佳子[2]
*Nanami Arii[1]，Keiko Oshida[2]

Abstract: In this study, we investigated the influence that the construction of horse racing tracs on the region from the perspective of horse racing history in modern Yokohama. The results show that the Negishi area developed as a place for socializing and hospitality due to the racetracks.

１．研究背景及び目的―わが国における競馬は，1859 年の横浜開港に伴い，通商を目的に居留した外国人が，海岸を埋め立て，馬場を造ったことにはじまる．この経緯から横浜は，日本競馬発祥の地とされるが，これが日本人にどのように受け入れられ，まちに定着していったのかについての研究は少ない．そこで本研究では，競馬史の側面より近代横浜における競馬場建設が地域に及ぼした影響を考察するものである．

２．研究方法―本研究の調査概要を Table1 に示す．

３．結果及び考察―Table2 に調査結果を示す．記載の特徴より，居留地競馬期（1861～1866 年），根岸競馬場誕生期（1867～1876 年），日本レースクラブ誕生期（1880～1902 年），根岸競馬終焉期（1904～1940 年）に 4 分類した．以降これに従い，結果及び考察を述べる．

３－１．居留地競馬期―Table2 より，1861 年に居留地民の要望を受け，【1】「洲干弁天社裏の西海岸を埋め立てて馬上及び馬見所」が新設されたが，【2】「移住民家のために地位が狭くなった」ことで，翌 1862 年に【4】「西洋式競馬横浜新田の埋め立てでできた仮の競馬場」，その後，山手に新たな競馬場が建設された．1864 年には，居留地における競馬場建設について記した【6-1】「横浜居留地覚書」締結に至った．1865 年には，【7】「イギリス 20 連隊が主催する競馬」が英軍駐屯地で開催，【8，10】に見られる，競馬を介して日本人と外国人との親睦が図られた．以上より，この時期は，居留地民が要請した競馬場が点々と位置を変える中で，競馬が徐々に日本人に浸透した時期といえよう．

３－２．根岸競馬場誕生期―Table2 より，生麦事件を受け 1866 年に「横浜居留地改造及び競馬場墓地等約書」が締結，初の常設競馬場として根岸競馬場が建設された．1867 年【14】「馬場中央部は棚畠で農夫が耕作」と長閑であった根岸周辺は，その後，【17】「競馬場入り口に街並み」【19】「中村と根岸町の境に家並み」と徐々に発展し，【21】「まちの人にとってアルバイトの場」と称されるほど，経済を潤したことが窺える．【16，18】より，この頃の根岸競馬場では，日本人は【21】「政府高官貴賓」の観覧のみであったが，その後【22】「平民の乗馬が許可」，【25】「日本人騎手が正式に競技に参加」と，緩和された．しかし，【29】より運営元の横浜レースクラブへの入会は許可されなかった．以上より，この時期は根岸競馬場建設に伴い地域は発展，活性化したが，日本人と競馬との直接的な係わりは存在しなかったといえよう．

３－３．日本レースクラブ誕生期―Table2【32】より，1890 年に競馬場の管理権を日本政府が取得するとともに，イギリス人が主体の日本レースクラブが設立された．このクラブでは，日英同盟を受け日本人の入会が可能となり，名誉会員に宮家，正会員に西郷従道らが名を連ねた．加えて【33，38】の明治天皇の行幸も相俟って，根岸には多くの著名人が集まり，これらをもてなすまちなみが整備された．一方で，根岸競馬場は治外法権下にあり，【30，31】の賭博罪が適用されず馬券販売が公式に行われたため，競馬熱が高揚し，金銭の集中とともに治安の悪化を招いた．以上より，この時期は日本レースクラブ誕生に伴い著名な日本人が根岸に集まったことで，地域発展が促進したといえよう．

３－４．根岸競馬終焉期―Table2【43，47】より，馬政局が，【51，53】にみられる馬券販売の厳格化を図ったが，過去の蓄積もあり，根岸競馬場は依然【60】にある富裕層の日本人と外国人双方の社交場であった．しかし，日中戦争開戦に伴い軍馬供出の必要が生じ，【63】競馬廃止，1942 年には根岸競馬場は海軍に接収され，1943 年に閉鎖した．以上より，厳しい状況下においても，競馬を介して日本人と外国人の社交場であ

Table1 調査概要

調査方法	文献調査
調査対象	「日本レースクラブ 50 年史」「浮世絵明治の競馬」「文明開化と近代競馬」など計 11 冊[1]～[10]
調査内容	近代横浜における競馬場，競馬に関する記載の抽出

１：日本理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち

った根岸競馬場が閉鎖に伴い，70 年以上培われた日本人と競馬との係わりが途絶えたといえよう．

４．まとめ―以上より，根岸競馬場の誕生は，根岸のまちの発展，活性化に寄与し，さらに，日本レースクラブの誕生は，競馬場が日本人と外国人を繋ぐ社交場の役割に加え，来訪者をもてなすまちづくりへと繋がったことを明らかにした．戦争で閉鎖には至ったが，跡地となった今もなお，根岸地区の象徴とたる存在として継承されているといえよう．

５．参考文献― [1]日本中央競馬会，日本レースクラブ 50 年史，1970[2]日高嘉継，横田洋一，浮世絵明治の競馬，1998[3]読売新聞社横浜支局編，ランドマークが語る神奈川の 100 年，2001[4]早坂昇治，文明開化うま物語，1989[5]馬事文化財団，ハイカラケイバを初めて候，2016[6]横浜市中区史地区編第九章根岸地区，1985[7]早坂昇治，競馬異外史論，1987[8]大江志乃夫，明治馬券始末，2005[9]J・ R・ブラック,ねず・まさし，ヤング・ジャパン 1,1970[10]毎日新聞社横浜支局，神奈川の 100 年(上巻)，1968

Table2　競馬場，根岸地区に関する年表（数字は調査の内容を示す．）

	年	競馬に関わる全国的な事項	根岸競馬場に関する事項	地域に及ぼした影響に関する事項
居留地競馬期	1861		【1】洲干弁天社裏の西海岸を埋め立てて馬上及び馬見所を新設．直線競馬場，和式馬術．[4]	【2】 忽ち移住民家のために地位が狭くなったことで，居留地方面に馬場設置の要望が起こる．[4]
	1862	【3】外国人の住宅建設の為，すぐに競馬場使用不可．[4]	【4】外国人居留地裏の円形競馬場．イギリス・オランダ人．西洋式競馬横浜新田の埋め立てた仮の競馬場．[4]	【5】 続々と来日本する外国人商人や日本人商人が移住したことにより，住宅の建設が必要になる．[4]
	1864	【6-1】英・仏軍が横浜に軍送る．幕府は英・米・仏・蘭と「横浜居留地覚書」締結． 【6-2】(9 月）外国人のための遊歩道完成．[6]		
	1865		【7】イギリス 20 連隊が主催する競馬が居留地内の練兵場（山手）で開催．[4]	【8】 日本人と外国人との親睦を図るために日本官使が招待され初参加．ちょんまげ競馬．[4]
	1866		【9】射撃場にて横浜競馬委員会主催の競馬大会．幕府は現在の山手駅付近の谷に 9016 坪の射撃場を作った．[9]	【10】日本人と居留地外国人との親睦を図るために行われた．[4]
		【11】幕府は「横浜居留地改造及び競馬場墓地等約書」締結．新たな競馬場建設準備が整う．[5]	【12】イギリスのオールコック特派全権公使を中心に，米公使・仏公使・蘭公使らが神奈川奉行に，土地を要求した．幕府の出資で根岸に建設決定．[10]	【13】正式に競馬クラブを発足．幕府は費用の軽減や財政上の考慮もあり，競馬場の建設を新居留地ないから遊歩路内の根岸村に変更するに至った．[1]
根岸競馬場誕生期	1867	【14】馬場中央部は棚畠で農夫が耕作をしており，のどかな田園の風景に溢れていた．[1]	【15】根岸競馬場で競馬初開催．競馬が開かれない時には，乗馬を楽しむ外国人小館員の姿も見受けられた．[1][4]	【16】当時神奈川県奉行の宮本小一氏(のちに外務大書官)によると遊歩道と競馬場建設の目的は、外国人の生命保全にあった．[1]
	1868	【17】競馬場入り口に街並みができる．[6]		【18】居留地民の競馬場は契約にうたっている如く外国人の使用を目的としており，日本人がこれを自由に使うことは到底できなかった．(1)
	1870	【19】中村と根岸町の境に家並みができ始める．[6]	【20】砂馬場から芝馬場へ変更された．[5]	【21】競馬が開催日は見物する政府高官貴賓たちの馬や馬車であふれ，大賑わい．まちの人にとって競馬場はアルバイトの場となった．交通整備や屋台，ラッパ吹きなど．[6]
	1871		【22】平民の乗馬が許可される．[4]	【23】競馬を見る日本人は，ちょんまげをほおかむりで隠し，イギリス人はシルクハットを着用．[2]
	1873	【24】根岸村の一部に「山元町」新設．[6]	【25】日本人騎手が正式に競技に参加．[4]	
	1874			【26】横浜レースクラブ誕生．[5]
	1875			【27】娯楽的な競馬であってもその勝負に賭する執念は今日に至らず，時には優駿に毒薬を投入したり，厩舎ごと焼き殺すなどの事件も起こる状態．[1]
	1876	【28】春季競馬開催に際し，新聞には交通規制の予告が出されるほどの人気をすでに博していた．[5]		【29】横浜レースクラブ内で，日本人・競馬会の入会問題や競馬番組に対する不満などから「横浜レース・アソシエーション」を結成した．[1]
日本レースクラブ誕生期	1880	【30】公布された刑法に賭博罪が規定．[8]	【31】根岸競馬場は治外法権の為賭博罪不適用．[8]	【32】競馬場の管理権が日本政府になる．日本レースクラブ誕生により日本人のクラブ入会が許可．[5]
	1881			【33】春季開催，根岸競馬場を明治天皇が初行幸．[8]
	1889	【34】町村制度廃止により根岸村独立．[6]	【35】日本競馬会社が春季競馬に作ったブック(競馬規則)が最古．一開催につき同一馬が三回まで参加することができた．[1]	
	1899	【36】不平等条約撤廃．[8]	【37】根岸競馬場も居留地としての契約期限が切れ明治政府の賭博罪が適用される予定であった．[2]	【38】明治天皇根岸競馬場へ最後の行幸．[1]
	1902	【39】日英同盟．[2]	【40】内地雑居となり，この年の秋季競馬開催は一般市民にとって公然の博場となり興奮に包まれた．[2]	【41】神奈川県知事周布公平とクラブ代表との間で八年間の延長を平穏にきめた．[1]
				【42】日英同盟で親英政策が確固となり，イギリス人が主要の日本レースクラブが賭けを続行．[2]
近代競馬終焉期	1904	【43】明治天皇の命令で臨時馬政調査委員が足．直属の馬政局と馬匹改良計画三十か年計画が策定．[2]	【44】競馬開催が 3 日間から 4 日間に変わる．[7]	
	1905		【45】森謙吾，D.マーシャルの努力によって日本レースクラブは 77 人の土地所有者から場内の土地を購入．[5]	【46】毎年続けられている皇室からの下賜の定例化を，英国大使館から宮内省に要請した．[2]
	1906	【47】馬政局が開局．[2]	【48】購入した土地に東日本初のゴルフ場を誕生させた．[2]	
	1907	【49】全国に 16 の競馬法人が設立．各地に誕生した競馬場は根岸をモデルにした．[2]		【50】「緑号事件」緑号が決勝を一着で通過したが，その騎手が所定の負担重量を欠いており，取り消した．クラブが厳正公正な競馬の施行に務めていた．[1]
	1908	【51】馬券販売禁止．[1]		
		【52】各地の競馬組織は財政難に陥り，補助金競馬が開始．[1]		
	1910	【53】馬匹改良計画は国防の為に存続し，内閣直属の馬政局を陸軍省に移した．[2]		【55】神奈川県知事周布公平とクラブ代表との間で五年間の借地契約を交わした．[1]
		【54】既設の競馬会を 15 から 11 に統合．[2]		
	1923	【56】関東大震災． 【57】競馬法制定．馬券復活．[7]	【58】観覧席が半壊．[6]	
	1929		【59】RC のスタンド完成(建設 5 年)．[6]一等馬見所は七階建て．階段状に広がる 4500 席．[3]	【60】一等館の身なりは厳しく，ネクタイをしめていないと入れない．昼休みにはスタンド中断で楽団がクラッシックを演奏．社交場の雰囲気．[3]
	1936	【61】競馬法が大改正．[5]		【62】各クラブは解散，日本競馬会に統合．[5]
	1940	【63】日中戦争．【64】競馬廃止．[11]		

※1 表内の文章は文献をもとに筆者が解読したもの．※2 下線部は本稿で引用した記載内容．